

「夢育」：一人ひとりの子どもが、自分の中で「夢」を育みながら、それに挑戦していく経験を通して、「意欲」や「自信」などの「自分を高める力」を養っていく教育（岡山県教育委員会）



安全安心な人間関係で築かれた家庭は、子どもたちにとって「心の安全基地」となり、非認知能力、夢育のベースにもなります。これを夢育の視点で表現するなら「夢育基地」でしょうか。「わが家のすこやか日記」は、まさに「夢育基地」のエピソード集として親しまれていますが、一方で「そんな余裕はない」「現実ほど遠い」という声も聞こえてきます。そこで、皆さんの「夢育基地」の実現に向けて、少しでもお役に立てればと思い、日記から見える夢育ポイントを紹介します。



夢育アドバイザー（岡山県）中山芳一



作品

小学生部門

お母さんと手をつなぐと、心があたたかくなる。お母さんは手をつなぐたび、「大好きだよ」と、言ってくれる。お母さんの手は大きいから、ぎゅーっとつなぎたいけどつなげない。だからかわりにお母さんがぎゅーっとしてくれる。（ああ、あたたかいな）「お母さん大好き

だよ。」と言ったらニコッとやさしい顔つきで笑ってくれる。その笑顔は、何とも言えない。私がお母さんになっても、子どもの手を笑顔でぎゅーっとしてあげたいな。

お母さんぎゅー

マンガ／マエバラチカ

注目!



夢育ポイント

手をつなぐ行為は、スキンシップの1つであり、安心感や幸福感を高めたり、ストレスや不安を軽くしたりする効果があるそうです。この主人公も「あたたかいなあ」と幸せそうです。今回の夢育ポイントは、「手をつなごう」でも良いのですが、それでは単純すぎるので、もうひとひねり。

「握ったら、握りかえしてくれる」「好きだよって言ったら、好きだよって返してくれる」、ここに注目です！自分が動けば、相手が動く。ということは、相手に求めるなら、自分が先に行動することが大切だとも言えますね。子育てで待ちの姿勢になっていませんか。わが子にこうしてほしいと求めるのなら、まずは自分がしてみるのが良さそうです。（中山芳一）